

# みつぎ便り

見次の会

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと  
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに  
所属しているボランティア団体です

99号  
12月号

平成26年12月1日 <http://itbs-ecopo.jp/projects/environsurvey/2014/000253.html>

## 縦の木（モミノキ）

クリスマスツリーでなじみの「モミノの木」が、公園の遊具広場の端に二本自生しています。日本では北は秋田県から南は屋久島まで広く分布している樹木で、東京付近では高尾山に密生する地域があるそうです。

公園の二本のモミノの木は五〜六メートルの大きさに育っています。球果を実らせるまでに成長しているのかは判りません。モミノの木の球果は十センチ程の大振りです、初めは緑色をしており秋に



成熟し灰褐色に変色し鱗片が脱落し種となり、脱落した鱗片はリスの好物だそうです。成木になると高さ三十メートルを超える大木となる種類もあり、山本周五郎の小説「縦の木は残った」は、NHK大河ドラマ化され日本人に馴染みとなった樹木です。

ちなみに物語は、江戸時代四代將軍徳川家綱の治世に、仙台藩伊達家に起こったお家騒動「伊達騒動」を題材に、従来悪人とされていた原田甲斐を主人公にお家取り潰しから藩を守るために尽力した姿を描いたものです。  
(安)

## ヒイラギナンテン（柊南天）

名前の由来は、棘のある葉を持つところからヒイラギに、実のつき方や木質がナンテンに似ているからです。また、学名には日本を意味する語がついています。トウナンテンという別名が示すとおり、原産地は中国で、江戸時代に渡来したもので、日本の野生種ではありません。三〜四月にかけて黄色い花を付け、果実は六月にはぶどうのような実をつけます。また、冬に



は葉っぱが紅く色づきます。その葉は美しく、樹高は一〜三メートルと低いため、庭木に多く利用されています。チクチクする棘の葉を利用して、よく立ち入り禁止場所に植こんでいるのが見受けられます。

見次公園では高速道路に沿った植え込みにあります。トウカエデに挟まって植えられており、その奥にはヒイラギも見られます。皆さんも散歩の途中に、葉のトゲトゲや、きれいな花、実をぜひ確認して下さい。  
(利)